

「第 1 回松江市再生可能エネルギービジョン検討委員会」の振り返り

令和 4 年 1 月に開催した「第 1 回松江市再生可能エネルギービジョン検討委員会」で委員の皆様からいただいたご意見のうち主なものについて整理しました。また、委員会の中でご質問いただいた内容についてもお答えさせていただきます。

●ご意見の内容（主なもの）

検討委員会でいただいた様々な意見を 3 つに分類し整理しました。

＜①松江市で再エネの導入を進めるための考え方・方針を決める必要がある＞

- ・ 松江市として行う取り組みを「今行うべきこと（現実的なもので CO2 排出量削減に直接結びつくもの）」と「将来を見据えて育てていく取り組み（市民一人一人ができることから始めるもの）」に分けて考える必要があると思う。
- ・ 松江市の特性（資源・地勢など）を活かした取り組みが必要だと思う。（例：水草・海藻をバイオマス燃料として利用、地熱の有効利用、ソーラーシェアリングの導入等）
- ・ エネルギー源ごとに様々な課題を抱えているため、課題解消に向けた取り組みが必要。
- ・ 事業者の視点で考えると、短期間で利益や成果が出るものに関心が強くなりやすい。産学官で協力して、夢のある様な新しい取り組みにもチャレンジしていければと思う。
- ・ 市民、事業者、行政にそれぞれメリットがあるような施策ができれば良いと思う。

＜②市民に興味を持ってもらえるような情報発信・PR が必要＞

- ・ 再エネ由来の電力を市内の文化財や観光施設で使用してはどうか。（例：松江城でのライトアップで使用）
- ・ 次世代を担う若い世代の人に興味を持ってもらうことが大切だと思う。
- ・ 市民一人一人が当事者意識を持つことが必要だと思う。

＜③再エネの導入に関するルール of 把握。景観・環境への負荷についての考慮が必要＞

- ・ 再エネの導入を検討する際には、関連する法律の内容や規制内容を把握する必要がある。
- ・ 地域性や景観、環境に与える影響への考慮も必要。

- 市の状況・特性を把握した上で、再エネ導入に向けた方針を示す必要がある。
- 市民に興味を持ってもらえるような方法で広報が必要。再生可能エネルギーを身近に感じてもらうことで、市民一人一人が当事者意識を持つようになるのでは。
- 導入に向けた法律や規制などのルールを把握し、松江市に適した方法で導入を進める必要がある。

●検討委員会の中で出た質問に対する回答

【質問内容】再生可能エネルギーを導入する際に要するコストはどのくらい必要か。

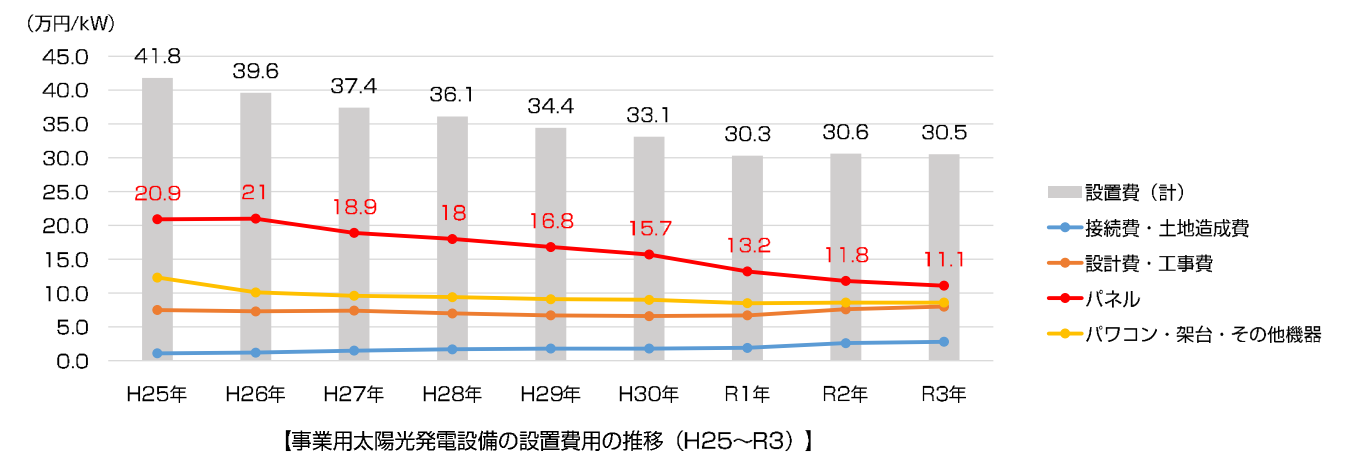
➡事業者用（発電設備の規模が 10kW 以上）の太陽光発電設備の設置に要する費用については、減少傾向となっており、特にパネルの費用は 8 年間で約半分の価格となっています。

太陽光については、FIT 制度の導入により普及が進み生産量が増加したことや海外製のパネルの輸入量が増加したことが主な理由と考えられます。

例）発電設備が 10kW の太陽光発電設備を設置する場合に要する費用は・・・

（H25 年に設置の場合）41.8（万円/kW）×10（kW）＝約 418 万円

（R3 年に設置の場合）30.5（万円/kW）×10（kW）＝約 305 万円



※事業用（発電設備の規模が10kW以上）の太陽光発電設置に要する費用の内訳
（出典）第73回 調達価格等算定委員会（経済産業省）の委員会資料を元に作成